

先輩っ! それって IT?

ITビジネスマン直次郎君の
恋のワケム!!

鈴波 凜

システム
エンジニア
(略してSEM)
というのは

伊東 直次郎

お客さんの
要望を的確に
プログラマーに
伝える必要がある

自分は
そんなSEMの
その卵で

あと怒られて

モニター見て
お客さんに
会って…

まあ、
そんな毎日…



また
怒られてやんの

お先に失礼



れっ
麗子さんっ！

あわわ

おっ
疲れー



あの人って
言うこと
キツイけどね
あんま気に
しないでさ

はっ はあ…

麗子さんは
同じ職場の
先輩アナリスト

仕事も出来るし
分析力も
素晴らしい

俺の憧れの人だ

うっ
美しい…

そして

なんでも
零と壹で
区別できるわ

凄腕の
プログラマー
でもある。

「麗子」の名は
数字の「零」から
来てるんじゃない
なかろうか？

さーて
残り時間も
頑張りますか
ねっ

はいっ

えっ



では



疲れた時は
甘いもの
ってね



イイツ!

この
気配り



そんなある日...

おーい

悪いけど
これ麗子さんに
渡しといて

ハイ





ダメだ

先輩っ

これからも
よろしく
お願いします！

教えるぞ先輩！！



……という
ことだね…



リーダーは
麗子君に
任せたよ

はい

この新しい
プロジェクトを
君たちに
お願いしたい







バカッ



あつ氣に
しないで

いいから
いいから

停めま
しょうか？

もうなんで
こんなことに
気が付かな
かったのかしら？



…そっかあ

？

？

それで
判断させれば
いいのよね



ふっ…

…なっ？…俺っ？…

自分で判断…かあ
でもっ…これって
人も同じよね
何でも自分で考える
ようにしないとね
…自分の思い通りに
ならないことのほうが
多いものね…



基準となるデータを
もとに自分で判断
させるようにすれば
このプログラムも
自立できるじゃない
もおっ私ったらあ

あつ

はあ…

じじが
じじで...
あじが
じじなっで...

うーん

まあ
いんじや
ないか

これで
進めていつて
くれるかな

ハイ!

わっ

やりましたね!

ん...

この前の
車での会話の
おかげかな?

へっ

要は好奇心をもって
仕事を楽しめるか
自分で考えるか

なのよね

改めて

好きだ、と思った





あの時の
電話って
もしか
したら…

わ



麗子さんの…

えっ…
あの…

簡単なプログラム組めるよ

あっウチの
息子…

結局…

想いを

伝えることなく

淡い夢と消えた

でも、そのかわりと
言っちゃあんだけど

前より仕事が面白く

感じるようになった…

そして月日は流れ…

女子に

モテモテだな



SEの直次郎
さんって最近
いいわよね

おっ



さらに。
バツイチだから
もう大変よー



うーっす

変な後輩も
できたぞ

じゃあ、直先輩
あとでよろしく
お願いしますねっ
お宝フィギュアもね



★この物語はフィクションです。実在の人物・団体・事件・設定等には、いっさい関係ありません。



テクノロジー狂想曲

MISA
Miyagi Information Service Industry Association

ショートコラム

●麗子と直次郎のアフタートーク

しゃべる? シンパズル

第1話



合いの手

果たして、
このアイデアは
どうなるのか?
続きは36頁へ
どうぞ!

麗「(以下、麗)」どう、最近の調子は? 仕事のほうも動きが出てきたって聞いているけど…」
直次郎(以下、直)「麗子先輩のおかげで、新しいプロジェクトも順調! 一歳年下の彼女とも上手くいっしょです」
麗「うちも、子どもがサッカーに夢中になってくれて、『安心。やつぱり、自分で考えるようにしないと、伸びないのよね』」
直「ううー、胸の古傷が…。まあ、僕の勘違いといえは、勘違いなんですが、あの時は本当に、びっくりしましたよ」
麗「子どもを思い通りにしようと思ったのが間違いだったのね。命令するだけじゃだめってこと」



仕事も恋も
全力で
立ち向かう

よね。プログラミングのツボも同じだってことが分かったしね」
直「あのときは、車のパワーウィンドウがヒントになったんですよ。考えてみれば、自動車だけじゃなく、テレビやケータイをはじめ身の回りのものはIT技術無しには考えられないですからね。いわゆるIT革命は産業革命以上に、経済と流通に変革をもたらしましたって知ってました?」
麗「おつ、ちゃんと勉強しているよね。そうよ、今後ITはさらに周辺の技術と融合し、無限の可能性を秘めているの。環境や医療、福祉、さらにバイオまで、これからの技術開発は」

ITと緊密な関係無しには発展しない」とまで言われているのよ」
直「これから、僕らの仕事はどんどん増えていくってことです」
麗「そう、だからもっと好奇心をもってやっていかなくちゃね」
直「ところで、先輩、ケータイ鳴ってますよ、お子さんからじゃ?」
麗「あら、やだ。ご飯炊けましたって、炊飯器からの自動送信メールだわ。実は最近、新しい炊飯器買ったら、コンセントからネットに接続出来るタイプなの。面白そうだから試したんだけど、お米をといでいれるより、メール設定の方が大変で…(笑)」
直「さすが、先輩。ITの最先端の最後尾を突っ走ってますね!」